

Sunshine  
Letter

こんにちは！  
「サンシャインくん」です。  
英語教育をがんばる先生を  
応援しています。



# 協働的な学びを 意義あるものにするための ICT活用

Mazur Travel/Shutterstock.com

**特集** 協働的な学びを意義あるものにするためのICT活用**実践**

神奈川県川崎市立旭町小学校教諭 宮毛 俊紀 … 2

**ここがポイント**

東京学芸大学教授 粕谷 恭子 …… 5

**連載** 先生のお道具箱 ～What's in your toolbox?～

佐賀県伊万里市立二里小学校教諭 岩永 亜希 … 6

## 特集

I'm from  
Kawasaki.

# 協働的な学びを 意義あるものにするための ICT活用

今注目の「ICTの効果的な活用」  
について、実践経験の豊富な  
先生の授業を見てみよう！



### 宮毛 俊紀

神奈川県  
川崎市立旭町小学校教諭



GIGAスクール構想のもと、児童一人一台端末環境が整備され、ICTの積極的な活用が推進されています。本稿では、ICT活用を目的化させないポイントについて、実践を踏まえて紹介します。

#### 単元について

##### ●単元名(配当時数)

オーストラリアの子どもたちに自己紹介をしよう。(8時間)

##### ●目標

名前や誕生日、好きなものなどについての自己紹介を聞いて概要を捉えたり、オーストラリアの子どもたちに自分のことや日本の子どもたちのことを知ってもらうために、名前や誕生日、好きなものなどを含めて伝え合ったりすることができる。

##### ●評価

聞くこと「知識・技能」

話すこと[やり取り]「知識・技能」

話すこと[発表]「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」

## 1 個別学習から始めるICT活用

「小学校学習指導要領」において、外国語活動・外国語の目標は、外国語による「言語活動」を通してコミュニケーションを図る素地・基盤となる資質・能力を育てることと示されています。これは、英語はコミュニケーションのツールだというメッセージであり、授業の中で児童が英語を実際に使用する経験を十分にさせることが求められていると捉えています。よって、外国語の授業におけるICTの役割は、コミュニケーションの場や機会の幅を広げることと考えています。遠隔地の人々との交流や、児童生徒が協力し合って課題を解決する協働的な学習が手軽にできるICTを有効に活用し、小学校から高校までの10年間の学びの質を高めることが期待されていると言えるでしょう。

#### 単元計画(略案)

| 時 | 主な学習内容                               |
|---|--------------------------------------|
| 1 | 世界の子どもたちの自己紹介を聞き、自分のお気に入りの自己紹介を見つける。 |
| 2 | 複数の先生になりきって名前や出身地を言う。                |
| 3 | 誕生日や日にちに慣れ親しみながら自分の誕生日を言う。           |
| 4 | 日本について知ってもらうために、自分が好きな日本のものを伝え合う。    |
| 5 | ALTに自己紹介する。                          |
| 6 | オーストラリアの子どもたちに自己紹介する内容を考え、友だちと伝え合う。  |
| 7 | オーストラリアの子どもたちに自己紹介するための動画を作成する。      |
| 8 | 例文を参考に自分の自己紹介の内容を書く。                 |

さて、GIGAスクール構想のもとで児童一人一台の端末使用が始まり、3年目を迎えようとしています。私は、小学校の段階では「ICTの活用は個別学習から」と考えています。現在は、児童がICT機器の取り扱いに慣れる前段階、つまり導入期半ばであると言えるからです。また、小学校は英語学習の入門期でもあります。協働的な学びの場面で使用することを急いしまうと、ICTの活用や協働すること自体が目的となってしまう、英語を用いて伝え合うことが二の次になってしまうおそれがあると考えます。本稿では、このような考えのもと、児童の発達の段階や学習内容を考慮した授業実践を紹介します。

## 2 ICT活用を 目的化しないための工夫

本校は「Google for Education 事例校プログラム」に参加しており、非同期型交流(リアルタイムではないコミュニケーションのこと)として同年代のオーストラリアの子どもたちと自己紹介動画を共有することになっていました。そこで、本単元の第6、7時にオーストラリアの子どもたちに向けた自己紹介動画を撮影し、第8時に相手の動画を視聴することにしました。  
外国語の指導にあたっては、言語活動を多く取り入れ

ることを意識しています。そのために大切にしていることは、目的や場面、状況などの設定を明確に設定すること、音声によるインプットを十分に行うことです。この2つの条件がそろえば、児童が自ら意味と音を結びつけながら英語を使用することができるようになります。

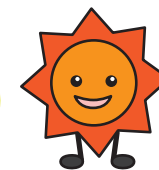
第2時では、はじめに私が学年の担任の先生方になりきり、児童が彼らの出身地を当てる活動を行いました。すると、児童は“I'm from Kawasaki.”という音声で川崎出身を意味していることに気がつきました。続いて出身地が同じ複数の先生になりきった音声を聞かせ、さらなるインプットを行ったのち、今度は児童が出題者として他の先生になりきって出身地を紹介したり当てたりする活動に取り組みせました。出身を言いたいときには“I'm from 〜.”という音声を出せばよいということを、明示的説明がなくとも理解し、発話する姿が見られました。

第4時では、同じ要領で、自己紹介の一環として、好きな日本の「食べ物」と「観光地」を伝える活動を行いました。そして次時に外国語指導助手(以下、ALT)に自己紹介をすることを予告すると、児童から「行事」なども伝えたいという意見が出てきました。そこで、デジタル教科書の音声再生機能を利用し、手本となる音声を聞きながら言い方に慣れることを個別学習の宿題としました。  
ここで注目していただきたいことが2点あります。

- ①個別学習は、児童にとって単なる練習ではなく必要感のあるものであること。(本実践では「ALTに自己紹介をするため」)
- ②個別学習は、多くの説明をせずとも容易にできるシンプルなものであること。

複雑な操作を必要とする活動では、手順を覚えるだけでも負担になります。実際、このときも「聞こえた音声をくり返し聞いたり、まねをしたりしてきてね」と伝える程度でした。手軽に取り組めることは、主体的な学習の実現には不可欠な要素だと考えます。もとより、週2時間程度の授業の中で、個別学習の練習のために時間を割いてしまうのはもったいないと感じます。

次時の活動をふまえた宿題を出すことで、児童が目的意識をもって取り組めるんだね！





### 3 協働することを 目的化しないための工夫

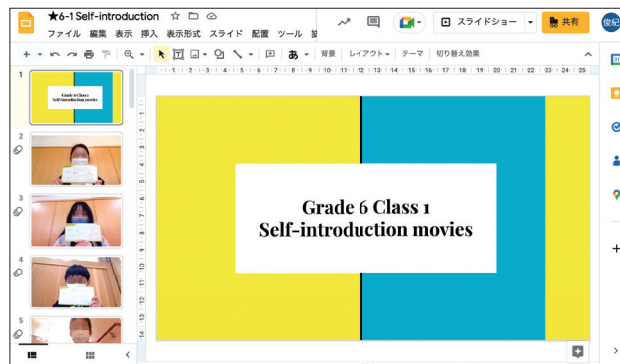
第6時では、個別学習を生かし、自己紹介の内容を考えたり、その自己紹介を友だちと見せ合ったりする活動を行いました。しかし、授業の振り返りにおいて、児童から納得のいく自己紹介ができなかったと感じている様子が見受けられました。また指導者としても、もっと相手意識のある自己紹介をしてほしいという思いがありました。そこで、次時にはオーストラリアの子どもたちと共有する動画を完成させることを伝え、自己紹介動画を撮影して提出する宿題を出し、その動画を見合うためにファイル共有ができるようにしました。児童は友だちの動画を見て、よいところをまねするなど自己紹介の改善に役立てていました。中には何度も動画を撮り直して提出する児童も少なくありませんでした。このことは、目的意識をもって個別学習に取り組んだことの現れだと思います。提出された動画は指導者も確認できるので、児童の学習状況の把握や個別支援にも役立ちました。

続く第7時では、はじめにグループで互いの自己紹介を発表し合い、アドバイスし合うという協働的な学びを行いました。すでに児童は個別学習で複数の動画を見ていたため、具体的なアドバイスができたようです。

注意すべきことは、授業内では動画を見ながらアドバイスし合う活動は行わないということです。小学校の英語学習においては、実際に自己紹介をし合ったりアドバイスをし合ったりするなど、英語を用いて伝え合うことが大切であり、その補助としてICTを活用するほうが有効であると考えます。授業では児童どうしが顔を向き合っているのですから、実際に英語を話す機会を設けることを忘れてはいけません。

### 4 個別学習から非同期型交流へ

第8時では、オーストラリアの子どもたちが作成した自己紹介動画を視聴する非同期型交流を行いました。非同期型交流のよさは、その場での対応を必要としないことから、時間や英語力に制限されずに英語を用いたコミュニケーションの場を手軽に設定することができるこ



#### ▲スライドショー機能

絵カードを話す順番に並べておく。スワイプで簡単にカードの入れ替えができ、話の内容を整理するときに役立つ。Google スライドなどのスライド作成アプリでも同様の学習活動ができる。

とです。児童はオーストラリアの子どもたちが話す生の英語に触れ、相手のことを知ることで学習意欲を高めたようでした。

### 5 まとめ

ICTの活用によって、地域の中学生やALTだけでなく、遠隔地にいる人々と交流する場を手軽に設定できるようになりました。オーストラリアの子どもたちと交流する機会がもてるビデオ通話などを用いた同期型交流を行ったほうがよいと考える方も多いと思いますが、その考えはICT活用を目的化させてしまいかねません。今回、非同期型交流を設定したのは、学年のはじめの実施であるということや、児童の英語力やICT活用スキルを考慮してのことです。同期型交流は、この後、オーストラリアの子どもたちに日本の学校を紹介する活動を設定して行いました。

最も大切にしなければいけないことは、指導者が学習内容や児童の実態を把握し、外国語の学習が成り立つように授業づくりをすることです。

この2年間で、ICTの活用には試行錯誤があったと感じています。「まず使ってみる」から先に進むためには、ICTは児童が協働的な学びを実現するための補助だということを常に意識することが大切だと思います。



この実践の単元計画は  
ここから  
ダウンロードできるよ！



### ここが ポイント

#### 英語教育とICT

ICTの活用、教科担任制……。新しい風が、生まれたての小鹿のような小学校英語教育をサポートするべく強く吹きつけています。そんな中、毅然と英語教育のICTに取り組んでいる宮毛先生のご報告です。

#### 宮毛先生の実践の特徴

##### ① 英語学習のあり方を十分理解している

ICTを使うと結果的に「ICTに使われてしまう」事例が多いのですが、小学生が英語を身につける道筋を深く理解しておられる宮毛先生は、意味と音を結びつける児童の能力を尊重し、その神聖とも言える学びにICTを導入させていません。英語学習を基盤においてICTを使う箇所と使わない箇所を峻別しておられます。

##### ② 授業の時間はフルに「ナマ」を重視している

教室という対面できる「ナマ」の場もっている価値を十分理解しているからこそ、無駄にICTを使うことをしていません。

##### ③ 単なるノルマでないICTを使った宿題の出し方をしている

児童の必要感をうまく刺激しながらやる気を引き出し、課題に取り組ませています。宮毛先生は「宿題」という言葉を使っていますが、児童は宿題だとは思わず取り組んでいたのではないのでしょうか。共有ファイルを

作り、児童が級友の動画を見て互いに参考にすることができるようにしたことも効果的であったと思います。ただし、児童の発話には誤りが含まれていることがあります。取り入れる上では話すことの指導を十分に行うことが大切です。また、共有ファイルは教師にとって児童の学習状況を確認し、次の指導に生かす資料となります。児童に力をつけさせるという宿題の目的を果たすために、有効に活用したいものです。

#### 試行錯誤を楽しみましょう！

この報告を読むと、あまりICTを使っていないような印象を受けられるかもしれませんが、しかし、宮毛先生はICTに詳しく、他教科の指導では大々的に使いこなしておられます。外国語という教科に適切な使い方を探った結果、ICTを御しているのです。このように洗練された使い方ができるようになるまでには、試行錯誤が必要です。はじめの一步を踏み出さなければ試行錯誤もできません。宮毛先生の実践を参考に、先生も児童も無理なくできることから始めてみましょう。

粕谷 恭子  
東京学芸大学教授



### まとめ

- ① 児童の発達の段階や学習内容を考慮し、個別学習からICTを活用する。
- ② 個別学習は、児童にとって必要感があり、練習や説明がなくてもできるシンプルなものにする。
- ③ 遠隔地にいる人々との非同期型交流など、ICTのメリットを生かした活動を行う。



# 先生のお道具箱 ～What's in your toolbox?～

【Vol.2】一人一台端末活用による「自律した英語学習者」の誕生

岩永 亜希

佐賀県伊万里市立  
二里小学校教諭



## 1 「聞くこと」へのこだわり

「聞くこと」は、すべての言語活動の土台であり、始まりである。これは、私が授業づくりの軸にしている言葉です。20代の頃、私はオーストラリアに3年間滞在しました。言葉の壁は予想以上に高く、自宅に空き巣が入ったときに警察官の言っていることが聞き取れなかったこと、後日、盗まれたカメラが質屋に売られており、それが自分のカメラだと訴えても理解されなかったことなど、もどかしい思いをした出来事を挙げればきりがありません。聞き取れない表現は、話すこともできません。生きて使える言葉としての英語習得のためには、「耳を鍛えなければならぬ」と痛感しました。

## 2 夢のような一人一台端末環境

オーストラリアからの帰国後は、音声に触れさせる頻度を高めることを意識し、ゆっくりははっきりを心がけながら児童にできるだけ英語で話しかけたり、電子黒板を活用してく

り返し音声を聞かせたりしました。しかし、児童の英語を聞き取る力には個人差があり、同じ表現を2、3回聞けば自分で発話できる児童もいれば、何回聞いても声に出すことをためらう児童もいます。学級全体に向けた一律の指導だけでは児童の聞く力を高めていくのは難しいと感じていた頃、一人一台端末が導入されました。これは、外国語教育にとって夢のようなツールです。一人一台端末の活用により、

- 自分のペースで、納得がいくまでデジタル教材を視聴できる。
- 自分が使いたい英語表現を調べ、その音声を聞くことができる。
- カメラ機能で自分や友だちのパフォーマンスを振り返ったり、それらを記録することで学力の伸びを実感できたりする。

など、実態に応じた「個別最適な学び」が実現できるようになりました。

## 3 Wordのディクテーション機能を使って

(Google、Speechnotesでも実践可能)

一人一台端末を活用した、我が校の児童が大好きな活動「自分の声を文字にしよう」を紹介します。

Wordにはディクテーションという機能があります。これはマイクに

話しかけると、Word が聞き取った音声を、文字に変えて画面に表示するという機能です。操作方法は以下の通りです。

※Wordのディクテーション機能は、Word365の標準機能です。

1. Wordの[ホーム]タブ上の[音声]ボックス内にある、ディクテーションの青いマイクのアイコンをクリックする。
2. 画面下部に表示される歯車のアイコンをクリックし、「ディクテーションの設定」画面を表示し、[話し手の言語]で英語(米国)を選択し、「保存」をクリックする。
3. 再度、青いマイクのアイコンをクリックすると、赤く点滅し始め、音声認識がスタートする。
4. 端末のマイク(またはヘッドセットのマイク)に向かって英語を話す。
5. 音声認識された自分の声が画面に文字化される。

自分が話した英語が相手に伝わりやすいかどうかを児童自身の目で確認できるようにするために始めた活動ですが、実践していく中で次のような効果も見られました。

- ① ワークシートの文字と画面の文字を何度も見比べることで、音声だけではなく、文字を識別できるようになり「読むこと」の力を身に付けた。
- ② 発表では大きな声で言えなかった児童が、はっきりした声を出せるようになった。

②については、次のようなエピソードがあります。

食材をテーマにした単元でのことです。言語材料にporkを扱っていました。児童は画面にporkと正しく表示されるようになり繰り返し発話するのですが、park, pour, poorなどと表示されてしまい、なかなか成功しません。普段は声を出すことが苦手な児童も大きな声で発話するほど、みんなで夢中になって挑戦しました。

誰もporkの文字を出せないでいると、一人の児童がカナダ出身の

ALTに「先生、言ってみてください」とお願いしました。みんなが注目する中、ALTは一発でporkと表示させ、児童から大きな歓声が上がりました。

## 4 自律した英語の学習者

私は英語専科教員として約400人の児童を担当しています。その中に、学校の授業以外で英語を話す機会がある児童はほとんどいません。それならば、せめて学校では「話すこと[やり取り]」中心の授業スタイルを継続し、児童の英語の発話量を増やしたいと考えています。そこで見えてきた課題は、語彙力不足です。自分のことを伝えたいという思いであふれているのに、英語で何と云うのかわからずブレーキがかかってしまうのです。

しかし、その課題は一人一台端末の登場で少しずつ解決し始めました。児童は自ら、端末で調べた英語表現を楽しそうにワークシートに

書き写し、その音声を端末で聞き、そして友だちに伝えています。そこには、情報活用能力を身に付けた「自律した英語学習者」の姿がありました。

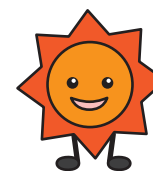
## 5 臆することなく英語を声に出す

一人一台端末の活用というと、機械に向かって話しかけるといった無味乾燥な印象を受ける場合もありますが、実際に人と言葉でコミュニケーションを図るための準備段階における一人一台端末の活用価値は高いと考えています。なぜなら、「自分の声を文字にしよう」の活動によって自信をつけた後に、互いに自分の考えや気持ちを伝え合っている児童の表情はとてもリラックスしていて、コミュニケーションを楽しんでいるからです。自信をもつということは、声の大きさにも表情にもこんなにも良い影響を与えるのだと実感しました。

臆することなく英語を声に出す児童を育てたい。そんな思いで、これからも児童の学びを最大限に引き出していけるよう、児童に寄り添っていきます。

実際に授業で使われている

ワークシートは、  
ここからダウンロード  
できるよ！



ヘッドセットのマイクに向かって英語表現をくり返し発話する、Wordのディクテーション機能を活用している様子。



読める! 書ける! 聴ける! 遊べる!

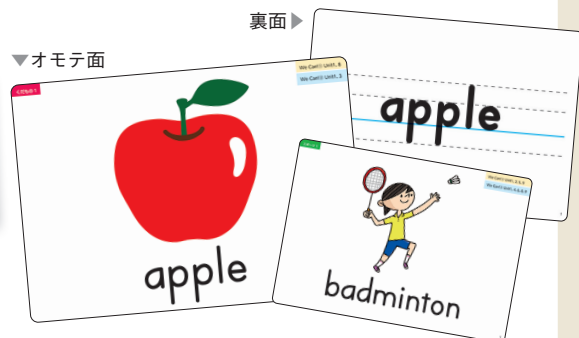
# 開隆堂の小学校 外国語・外国語活動教材

## 単語絵カードシリーズ

たべる編 あそぶ編 みらい編

英単語の「読み」「書き」にはやっぱりカード! 黒板に貼りやすいA4判サイズのカラーカードです。「CHANTS&SONGS CD」の英単語チャントに対応しています。

- 仕様: A4判カード96枚、A全判掛図2枚、解説書 各編
- 定価: 10,120円(本体9,200円)



## 単語絵カード★ミニ

「単語絵カードシリーズ」より96枚を厳選、縮小した児童用のカードセットです。

- 仕様: 絵カード(74mm×105mm) 96枚
- 定価: 1,760円(本体1,600円)

## CHANTS & SONGS CD

英単語とフレーズ、歌を多数収録したCD2枚組です。

- 仕様: CDエキストラ2枚組
- 価格: 7,150円(本体6,500円)



## はじめての小学校外国語活動実践ガイドブック

はじめて外国語活動を教える先生でも安心して授業にのぞめるよう、授業の流れやゲームの仕方などの基礎知識をポイントごとに説明しています。

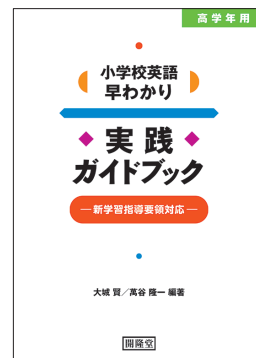
- 大城賢・萬谷隆一 編著
- 仕様: B5判 96頁
- 定価: 1,320円(本体1,200円)



## 小学校英語早わかり実践ガイドブック

学習指導要領のポイントを実践でどのように生かしたらよいか、テーマごとに実践例を交え、わかりやすくまとめています。

- 大城賢・萬谷隆一 編著
- 仕様: B5判 96頁
- 定価: 1,320円(本体1,200円)



**開隆堂YouTubeチャンネル**  
英語教育のコンテンツを続々アップします。

チャンネル登録をお願いします



### 第1弾 教えてアリソン先生!

立教大学講師の長谷川アリソン先生による「英語の発音指導法3分間動画」シリーズです(全4回)。第2回は「THとSの発音」についてです。



### Cover Picture 世界のおまつり② バルンガン(パリ)

日本のお盆にあたる行事で、神々や祖先霊、また自然霊が地上の寺院に降り立つ日とされている。この日には人々はお供え物でもてなし、祈りを捧げる。各家庭の玄関先には、神々が降り立つ目印としてペンジョール(竹の飾りつけ)が立てられる。

小学校英語情報誌

非売品

Junior Sunshine Letter Vol.2



開隆堂出版株式会社

本社 〒113-8608 東京都文京区向丘1-13-1 ☎ 03-5684-6111

2023年4月5日印刷 2023年4月10日発行 編集兼発行人 岩塚太郎

発行所 開隆堂出版株式会社 〒113-8608 東京都文京区向丘1-13-1

☎ (03) 5684-6121 (営業)、5684-6118 (販売)、5684-6115 (編集) <https://www.kaikudo.co.jp/>

北海道支社 〒060-0042 北海道札幌市中央区大通西11丁目4-21 52山京ビル7階 ☎ 011-231-0403  
東北支社 〒983-0852 宮城県仙台市宮城野区榴岡4-3-10 仙台TBビル4階 ☎ 022-742-1213  
東北支社 〒461-0004 愛知県名古屋市中区栄1丁目15-18 オフィスサンゴヤ9階 ☎ 052-908-5190  
大阪支社 〒550-0013 大阪府大阪市西区新町2-10-16 ☎ 06-6531-5782  
九州支社 〒810-0075 福岡県福岡市中央区港2-1-5 FYCビル3階 ☎ 092-733-0174